ホンダ

HS50

取扱説明書

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、下記の弊社**ご相談窓口**にお気軽にお申しつけください。

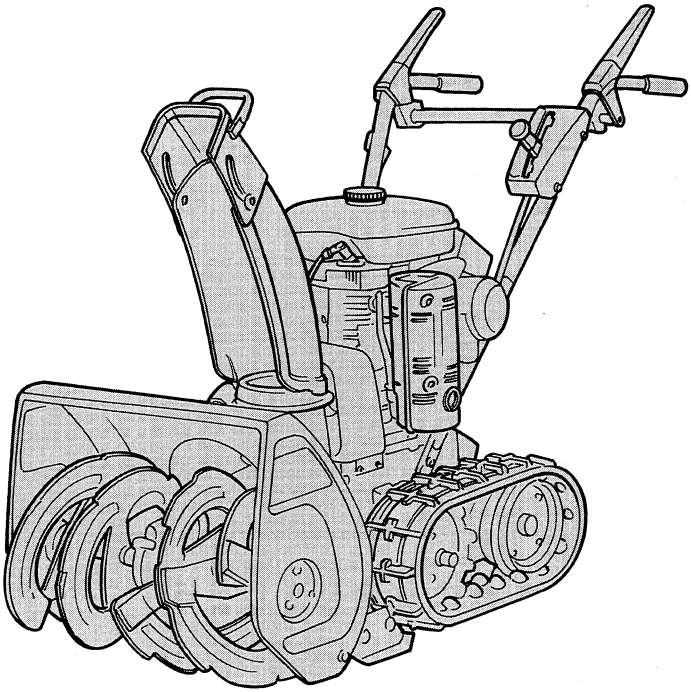
ご相談窓口

名　　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
本田技研工業株式会社 北海道支店サービス係〈北海道全域〉	011(251)9231	060	北海道札幌市中央区北一条西7−1
本田技研工業株式会社 仙台支店サービス課〈東北6県〉	0222(25)6171	980	宮城県仙台市土樋1−11−2
本田技研工業株式会社 東京支店サービス課〈関東、甲信越地方〉	03(498)3251	150	東京都渋谷区神宮前6−27−8
本田技研工業株式会社 名古屋支店サービス課〈三重、東海、北陸地方〉	052(261)2671	460	愛知県名古屋市中区千代田1−7−2
本田技研工業株式会社 大阪支店サービス課 〈近畿(三重除く)、中国(山口除く)、四国地方〉	06(313)1171	530	大阪府大阪市北区南扇町7−31
本田技研工業株式会社 九州支店サービス課〈九州全域と山口〉	092(291)5131	812	福岡県福岡市博多区祇園町8−7
沖縄サービスセンター〈沖縄県〉	0988(77)3097	901−21	沖縄県浦添市字仲間仙原1506 ホンダSF沖縄(沖縄ホンダモーター内)

電話番号、住所などは変更になることがあります。

ホンダHS50は小型、軽量で取扱いに優れ、女性でも手軽にお取扱いいただける高性能な除雪機です。

安全、快適にお使いいただくためにご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。



なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう……4
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう……8
エンジン スイッチ ツマミ……10
燃料コック ツマミ……10
チョーク ツマミ……11
投雪方向調節ハンドル……11
投雪距離調節グリップ……11
回転調整レバー……12
オーガークラッチ レバー……12
自走クラッチ レバー……13
変速レバー……14
ソリ……14
フート ペタル……15
始動グリップ……15
エンジンをかける前に点検しましょう……16
ガソリンの点検……16
エンジン オイルの点検……17
エンジンのかけかた……18
除雪のしかた……20
エンジンの止めかた……24

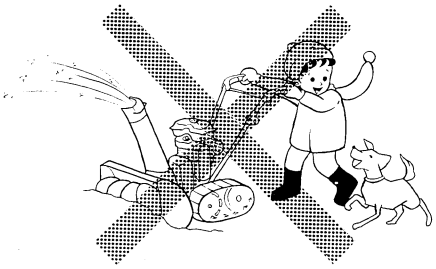
定期手入れを行ないましょう……25
日常点検……25
定期点検……26
やさしい点検・整備……27
携帯工具……27
エンジン オイルの交換……28
クローラの張り調整……30
点火プラグの点検、調整……31
長期間使用しない時の手入れ……32
修理を依頼される前に……36
主要諸元……38
保証のご案内……40

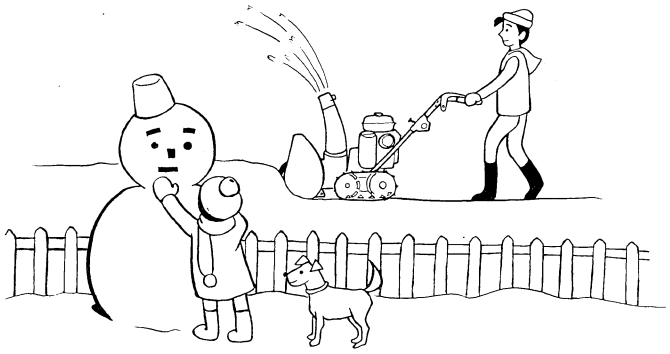
安全にお使いいただくために　これだけは

HS50　は正しく取扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な除雪作業のために次のことを必ずお守りください。

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。
- 操作を子供にまかせることは大変危険です。
- 簡単な操作でご使用できますが，まちがいなく取扱う為に各種操作になれてください。
- 除雪部は大変危険です、子供やペットが近づかないよう十分注意してください。
- 取扱説明書を読んでもよく理解できなかったり、粉失の際にはお買い上げ販売店か、最寄りのホンダＳＦへご連絡ください。



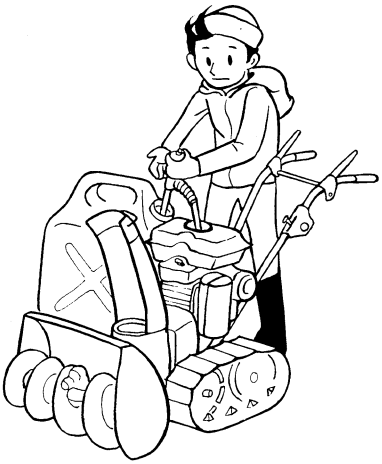




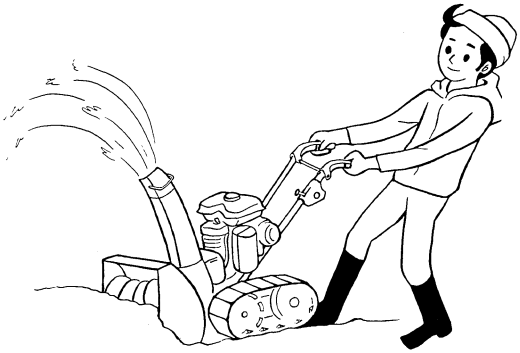
ぜ ひ 守 り ま し ょ う

- 作業をする時は、防寒用の服装で身仕度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。
- 雪が降る前に除雪しようとする区域を事前に十分点検し、ドアマット、そり、棒、板、針金などの障害物を取り除いてください。
- 砂利道等の除雪は砂利の飛び出し等非常に危険を伴いますので投雪には十分注意してください。
- 視界の悪い場所や，夜間十分な照明のない場所での使用は危険ですからおやめください。
- 仕業点検を必ず行ない、不具合のある場合は使用前に修理を完全にしておき、不備な状態での使用はぜったいにおやめください。
- 屋根に積った雪や急斜面の除雪は行なわないでください。
- ガソリンは非常に引火性がありますのでその取扱いには十分注意してください。



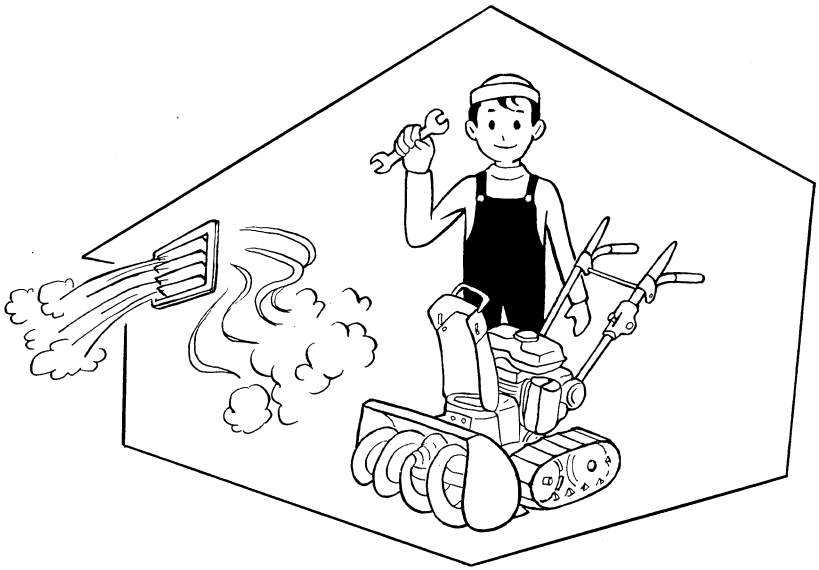


- 本機の操作は必ずハンドルを持ち後部に位置してください。また投雪をかぶらないように注意してください。
- 投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はその度行ない、適切に行なってください。
- 除雪中障害物に当った時はすぐにエンジンを止め，注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
- 除雪部分や投雪口に顔や手足を近づけないでください。
- 除雪中に人やペットが急にあらわれた場合には速やかにクラッチレバーをはなしてください。
- 斜面での方向転換には十分注意してください。
- 雪づまりの除去を行なう時は，エンジンスイッチを〝停止〟にしてから行なってください。

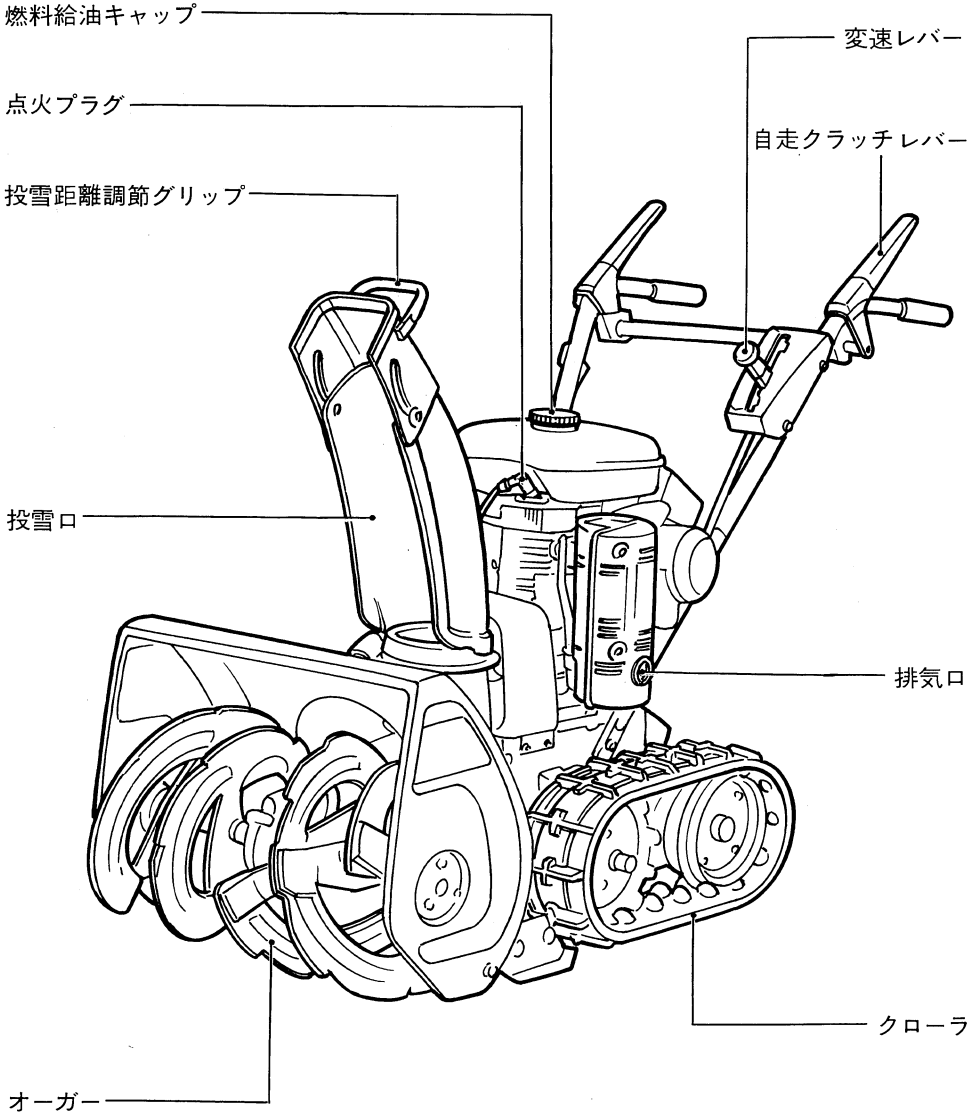




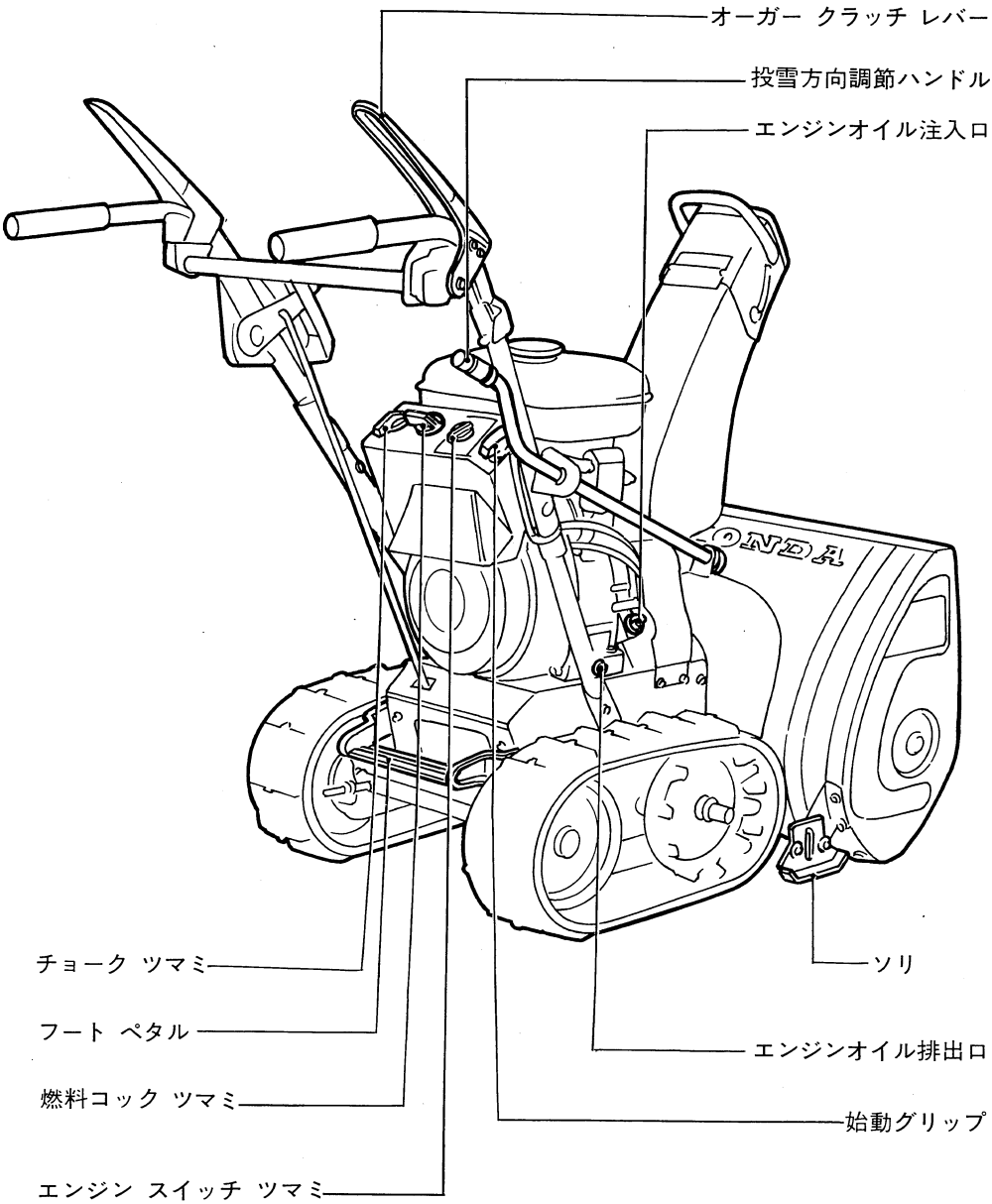
- 屋内でエンジンをかけて点検する場合は換気に十分注意してください。換気の悪い場所は、有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。
- 長期保管前にはタンク内のガソリンを抜きとり火気の恐れのある所には保管しないでください。また抜いたガソリンは引火性があり爆発の危険があります。
- 整備をする時の作業手順はやさしい点検整備にしたがってください。
- 修理などで部品交換をする場合は必ず本田純正部品をご使用ください。



各部の名称と取り

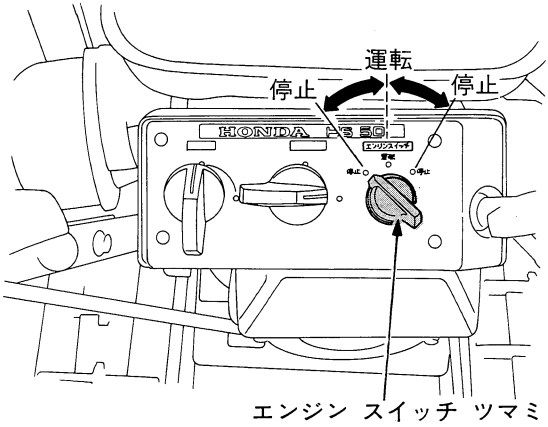

燃料給油キャップ
点火プラグ
投雪距離調節グリップ
投雪口
オーガー
変速レバー
自走クラッチレバー
排気口
クローラ

扱いをおぼえましょう


オーガー クラッチ レバー
投雪方向調節ハンドル
エンジンオイル注入口
チョーク ツマミ
フート ペタル
燃料コック ツマミ
エンジン スイッチ ツマミ
ソリ
エンジンオイル排出口
始動グリップ

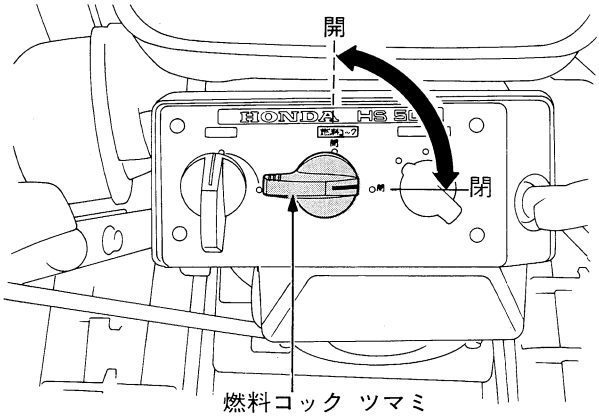
エンジン スイッチ ツマミ

エンジンの始動、停止をする時に操作します。



燃料コックツマミ

燃料タンクから気化器までの通路を開閉する時に操作します。操作は確実に〝**開**〟〝**閉**〟の位置に合わせてください。

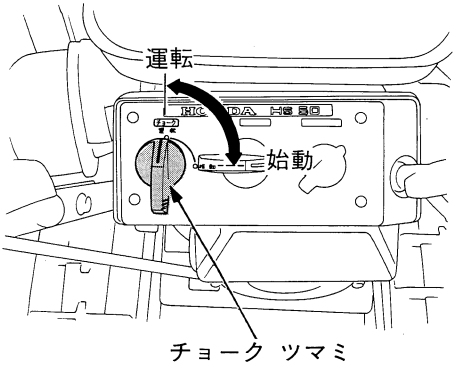


注意

- 運搬時、保管時及び点検整備時に本機を傾むける時はツマミを〝閉〟の位置に合わせてください。〝閉〟にしないと燃料がもれることがあります。

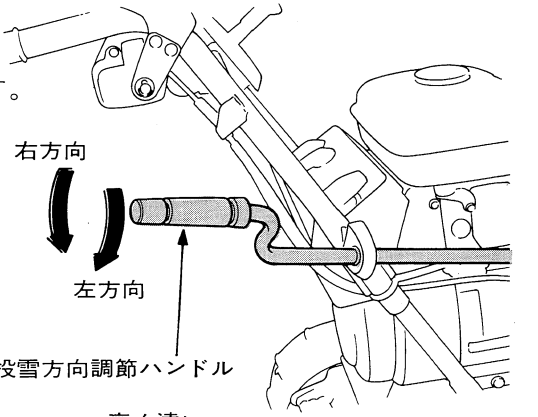
チョーク ツマミ

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



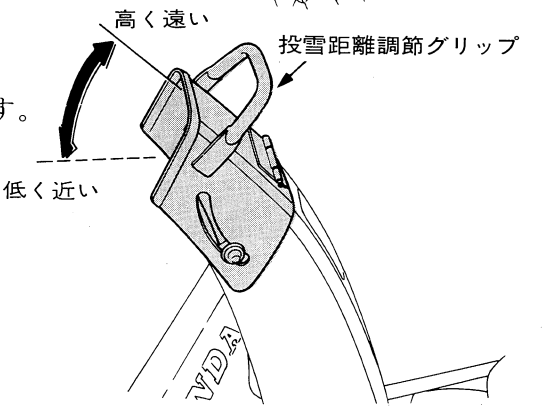
投雪方向調節ハンドル

投雪方向を変える時に操作します。



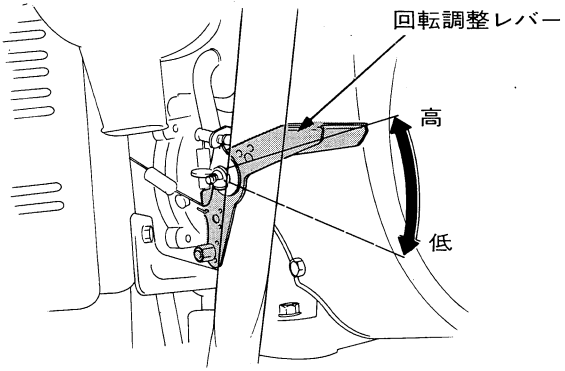
投雪距離調節グリップ

投雪距離を変える時に操作します。



回転調整レバー

エンジン回転を低↔高の回転で固定する時に操作します。通常は高の位置でご使用ください。

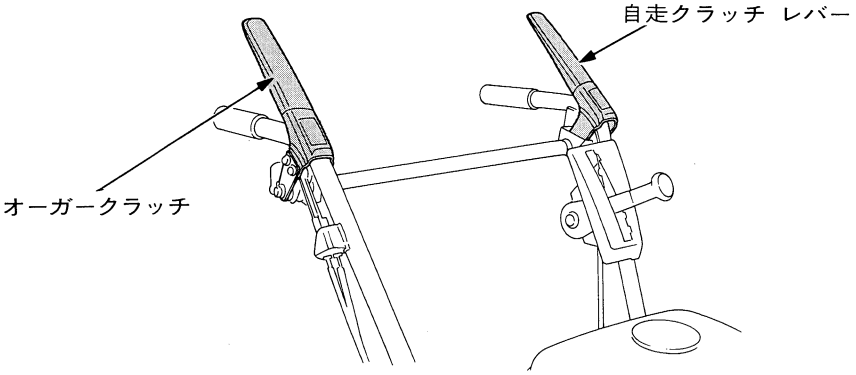


オーガークラッチ レバー

オーガークラッチ レバーを握ると除雪部が回転します。レバーをはなせばとまります。

このレバーは自走クラッチ レバーを握っていれば、オーガークラッチ レバーを一担握ることによりレバーから手を離しても固定されます。

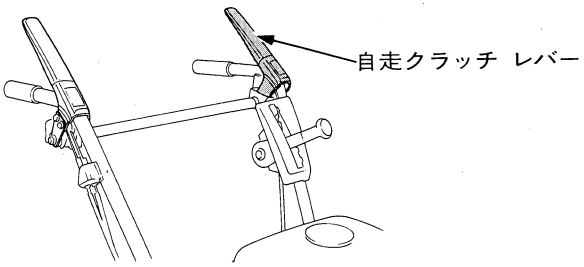
自走クラッチ レバーを離せば両方とも解除します。



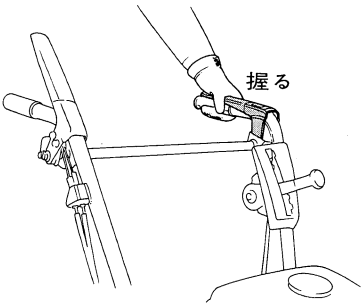
自走クラッチ レバーとの連動については次頁を参照してください。

自走クラッチ レバー

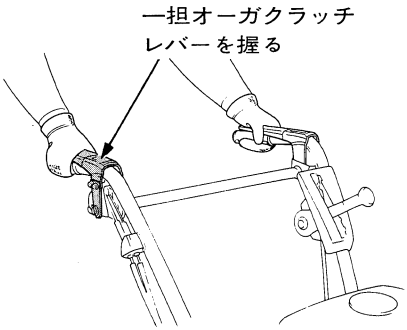
自走クラッチ レバーを握ると走行し、はなせば止まります。本機を移動させる時はこのレバーだけを握って下さい。このレバーを握っている時は一担オーガークラッチ レバーを握れば，オーガークラッチ レバーは固定され、手を離しても自走クラッチ レバーだけで走行及び投雪ができます。

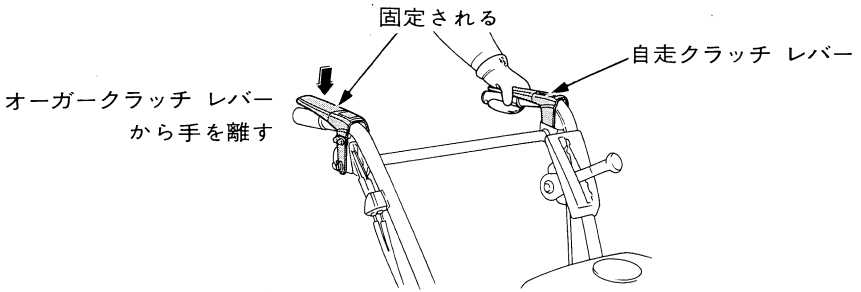


● 自走のみ



● 自走と投雪

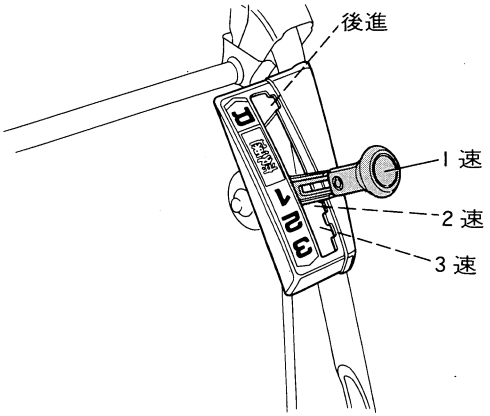




変速レバー

走行速度を調整する時に操作します。

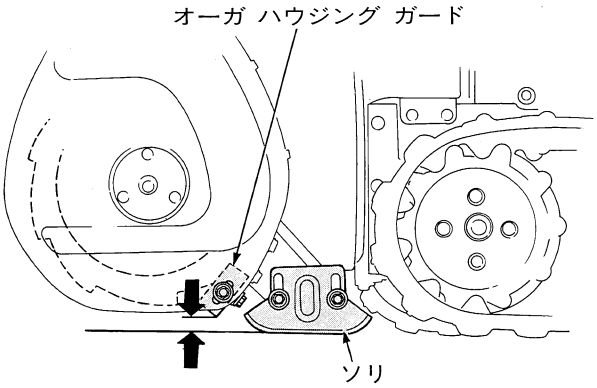
1 ：低速
2 ：中速
3 ：高速
R ：後進



ソリ

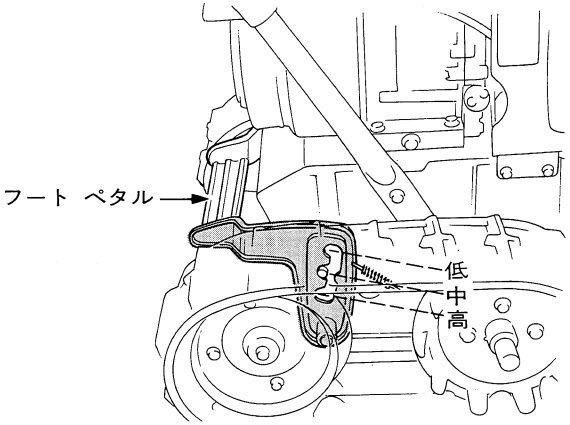
ソリの位置により、オーガ ハウジング ガードの高さを調節することができます。除雪する路面の状態に合せてソリの位置を調節してください。砂利道や、凸凹路面ではソリを一番下げた状態で除雪してください。工場出荷時はオーガ ハウジング ガードと路面との間隙が2 ～ 4 mmになる様に調節してあります。

尚、ソリの位置を調節する時はフート ペタルを「中」の位置で行なってください。



フート ペタル

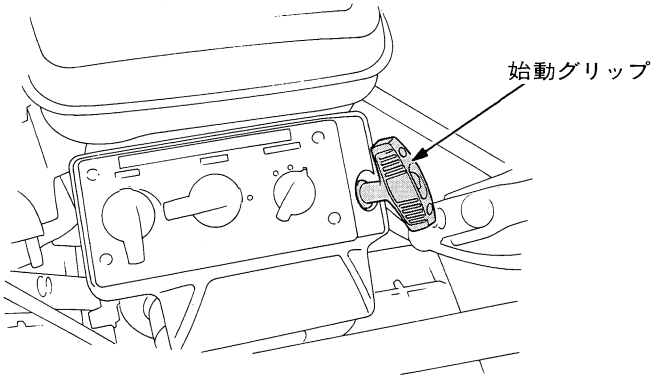
除雪部の高さを変える時に操作します。
ハンドルを両手で支えフート ペタルを軽くふみハンドルを上下に動かしペタルの溝を合わせる。



高：移動、段切除雪
中：一般除雪
低：硬雪、仕上り性アップ

始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。



注意 • 斜め右方向に引っぱること。

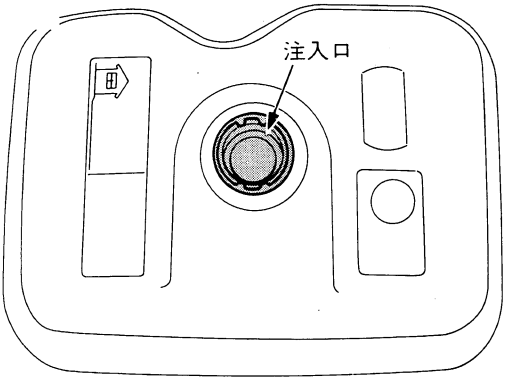
エ　ン　ジ　ン　を　か　け　る

★点検は平担な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

ガソリンの点検

点　検

燃料給油キャップを外し、注入口の口元より少なめにガソリンがあるか点検します。少ない時には補給してください。



補　給

使用ガソリン：無鉛（レギュラ ガソリン）

タンク容量：3.5ℓ

- 給油キャップを外し、注入口の口元より少なめに補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

注意

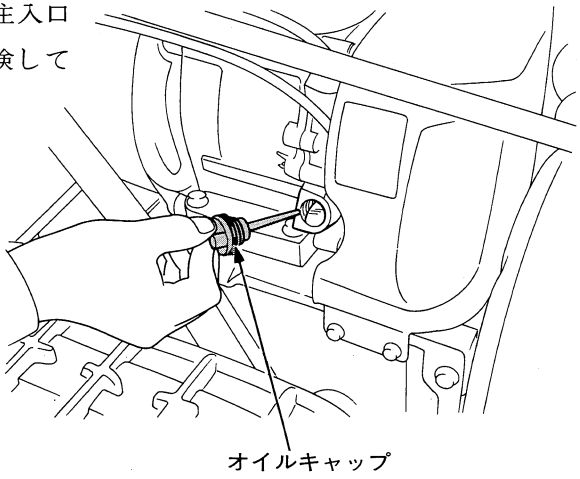
- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- 万一口元よりあふれた時は、こぼれたガソリンを布切れ等で速やかに拭きとってください。
- ガソリンの補給は燃料タンク内に雪・氷が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪等が入るとエンジン不調の原因になります。

前に点検しましょう

エンジン オイルの点検

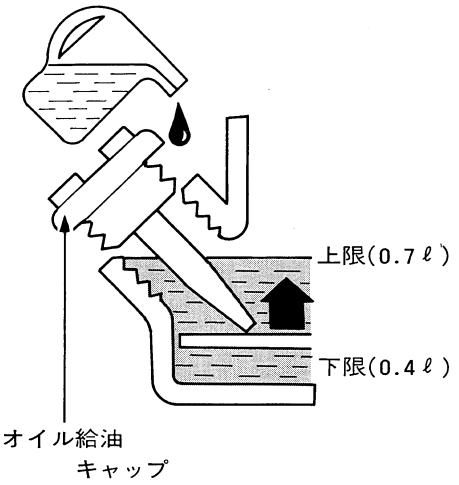
点　検

オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補　給

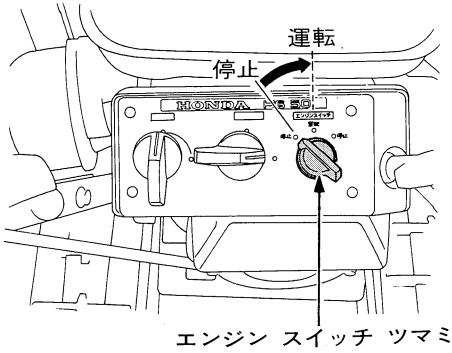
- 少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください（交換時期、方法は28頁参照）
- 指定オイル：SAE5W—30
  （API分類SE級相当のエンジン オイル）



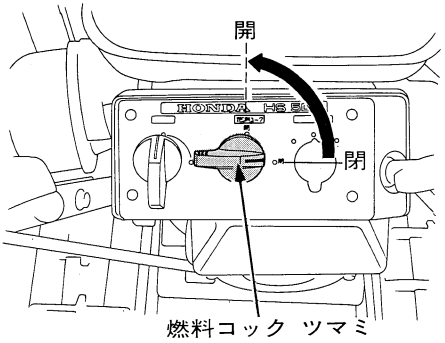
注意
- キャップはドライバ等で確実に締付けてください。
- 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

エンジンのかけかた

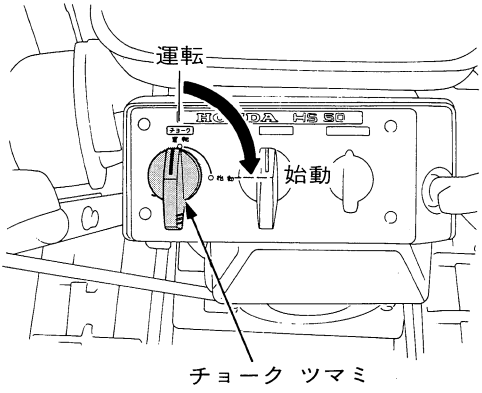
1.エンジン スイッチツマミを〝**運転**〟の位置に合わせます。



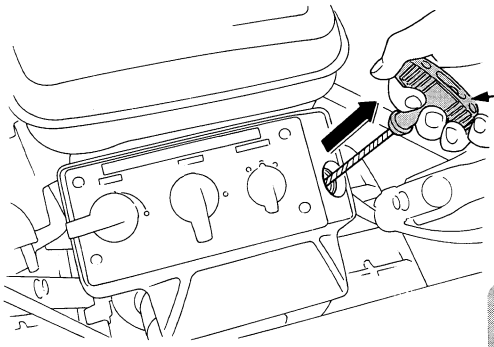
2.燃料コック ツマミを〝**開**〟の位置に合わせます。



3.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョークツマミを〝**始動**〟の位置に合わせます。



4.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

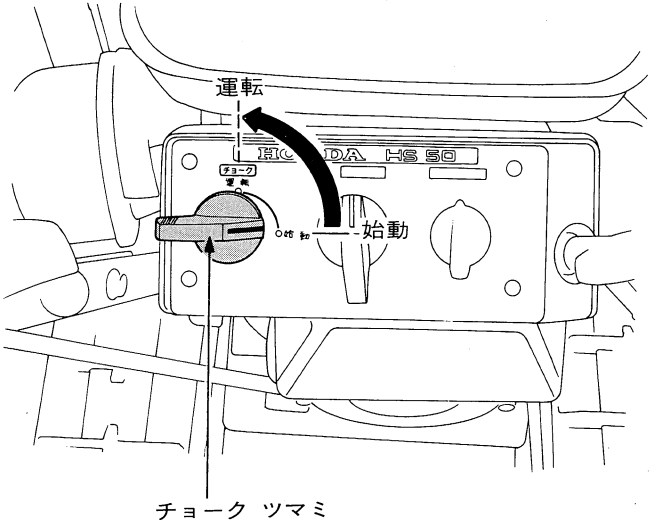


注意
- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

始　動

5．2～3分間暖機運転を行ないます。

チョーク ツマミを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら除々に〝**運転**〞の位置に戻します。

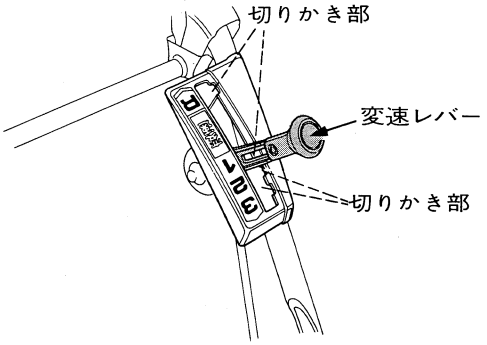


除　雪　の　し　か　た

除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり除雪作業に取り掛かってください。

1.本機を移動する場合

1)変速レバーを合わせる。



1秒間で何m走行するかを示します。

1 ：約0.23m

2 ：約0.36m

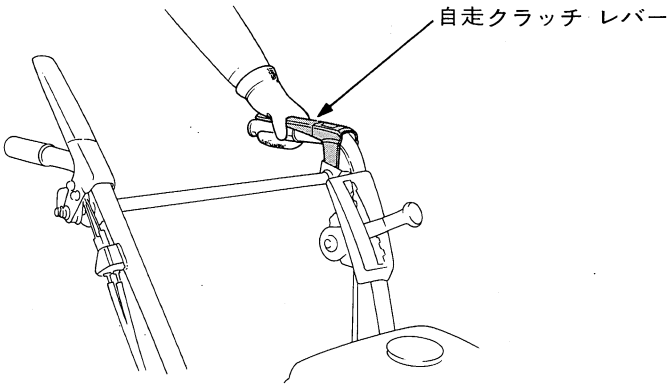
3 ：約0.50m

R ：約0.36m

注意
- 変速レバーは必らず切りかき部に入れてください。
- 走行中に変速しないでください。変速する場合は自走クラッチを一担離してから行なってください。

2)フート ペタルを操作する（15頁参照）。

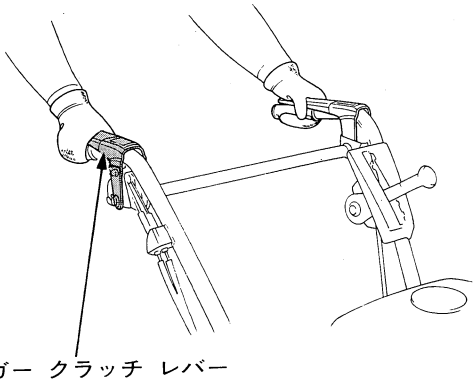
3)自走クラッチ レバーを握る。



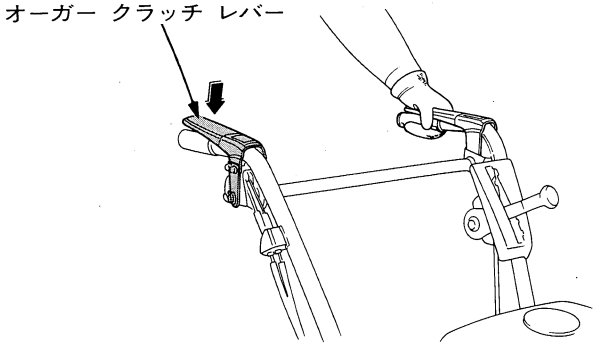
2.通常除雪作業（投雪しながら自走）を行なう場合

1)投雪方向調節ハンドルを操作する（11頁参照）。

2)オーガークラッチ レバーを握る。

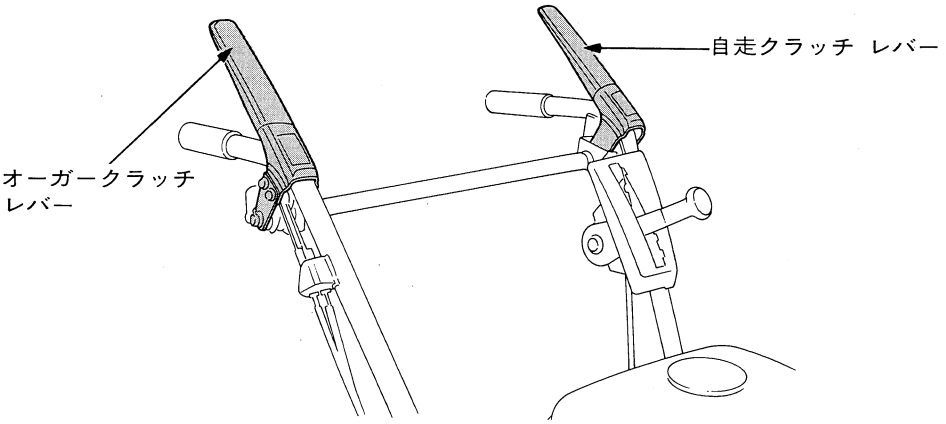


3)自走クラッチ レバーを握るとオーガー クラッチ レバーは固定された右手を離してもそのまま投雪と自走ができます。自走のみに移る場合は両方のクラッチ レバーから一度手を離して連動を解除してから自走クラッチ レバーを握ってください。

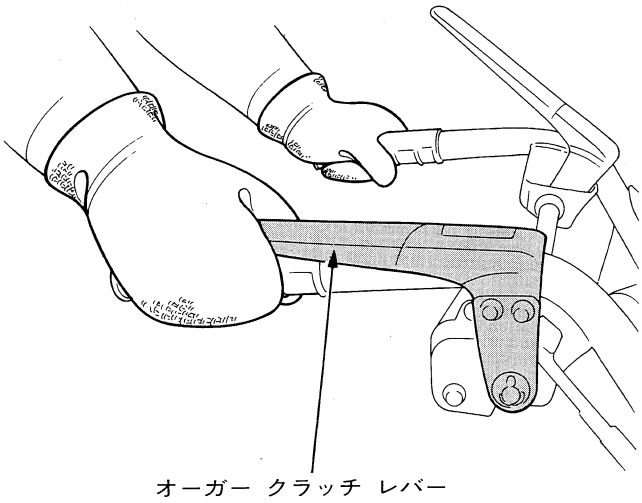


注意 • オーガクラッチ レバーを解除する場合は無理に手で起こさないこと。

4)投雪及び自走を解除する場合はクラッチ レバーから手を離してください。



3.投雪のみを行なう場合はオーガー クラッチ レバーを握る。自走クラッチ レバーと連動で作業していた場合は自走クラッチ レバーから手を離して行なってください。

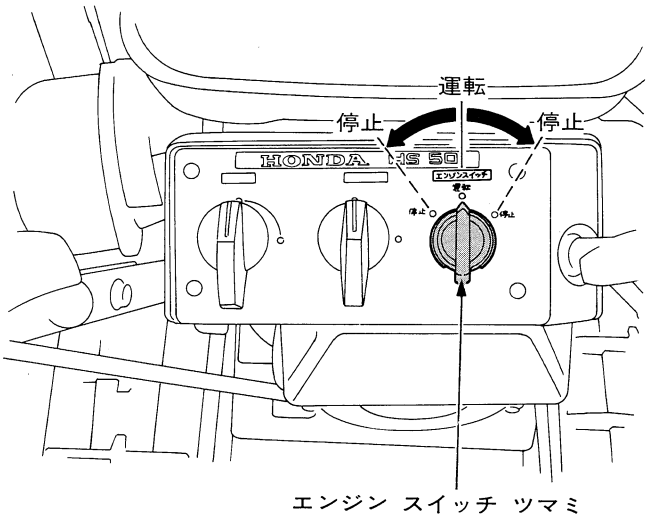


4.深い雪や、固くなったりした雪の場合は1速で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くして行なうのも良い方法です。

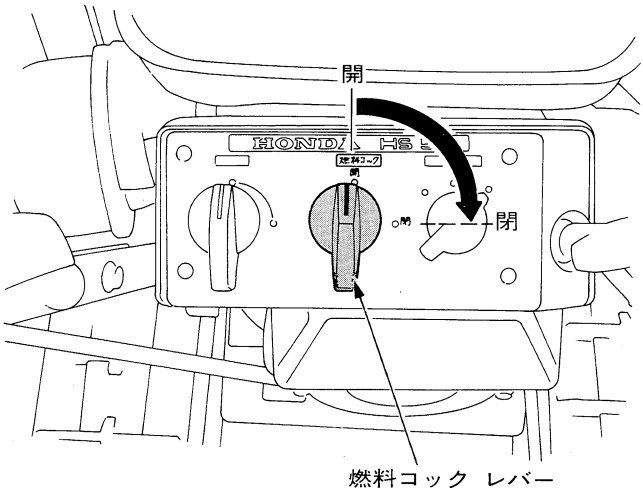
5.除雪しようとする雪の高さが除雪部分よりも高い場合は積雪部分を崩しながら（本機を前進・後進をさせる。）行なってください。

エンジンのとめかた

1.エンジン スイッチ ツマミを〝**停止**〟の位置に合わせます。



2.燃料コック ツマミを〝**閉**〟の位置に合わせます。

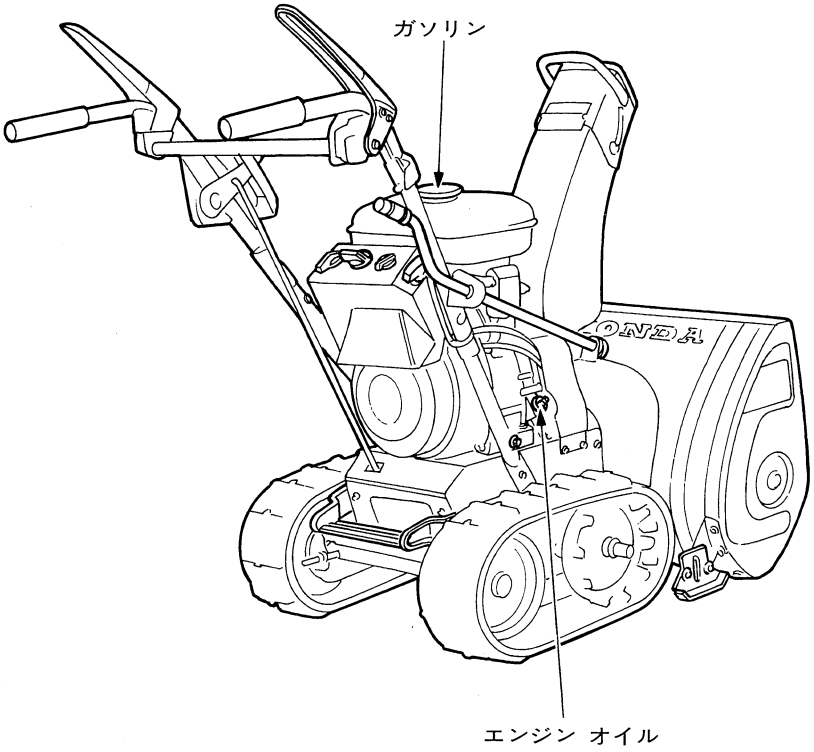


定期手入れを行ないましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行なってください。

- エンジンオイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け
- 除雪機能
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

定期点検は安全と性能を推持する為にぜひ必要なことです。指定された点検、整備は完全に実施してください。

点検項目 ＼ 点検時期		除雪時期（毎年）		5年毎点検
		始めの点検	終りの点検	
エンジン部	エンジン オイル 交換	○		
	点火プラグ 清掃	○		
	燃焼室 清掃			※ ○
	タペット クリアランス 調整			※ ○
	気化器燃料抜き		○	
	燃料タンク燃料抜き		○	
	燃料タンク 洗浄			○
	燃料チューブ 交換	3 年 毎		
フレーム部	クラッチ ケーブル 調整（オーガー 自走）			※ ◎
	クローラ 張り調整	○		
	除雪部 点検		○	
	Vベルト 点検		※ ◎	
	フリクション ディスク ラバー 点検		※ ◎	
	格納時の各部防錆塗油（フリクション シャフト オイル塗布）		※ ○	
	オーガー ミッション 点検		○	

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店または最寄りのホンダサービス工場（ホンダSF）へお申しつけください。

◎印のついた項目は消耗部品であり使用条件により交換時期がかわります。機能が正常でなくなった時、交換してください。

携帯工具

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



プラグ レンチ



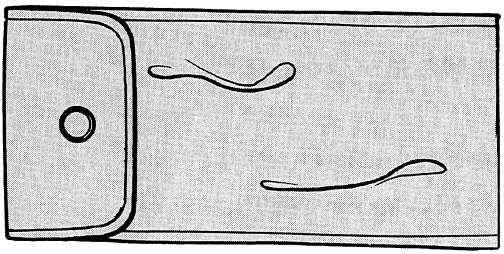
プラグ レンチ ハンドル



両口スパナ
（12×10）



両口スパナ
（14×12）



工具袋

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》 年一回初めの点検

《指定オイル》

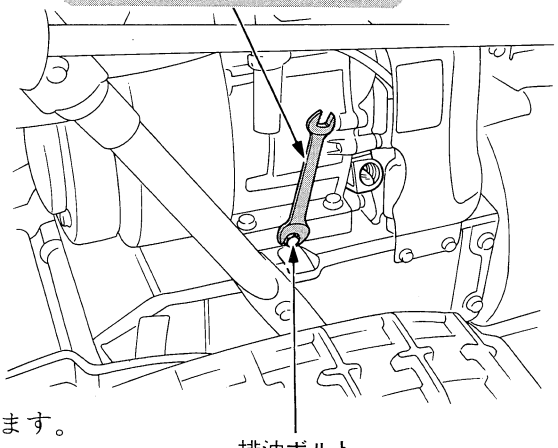
SAE 5 W-30 (API分類SE級相当のエンジン オイル)

《規定量》 0.7ℓ

《交換のしかた》

1. 本機を右側に倒してください。

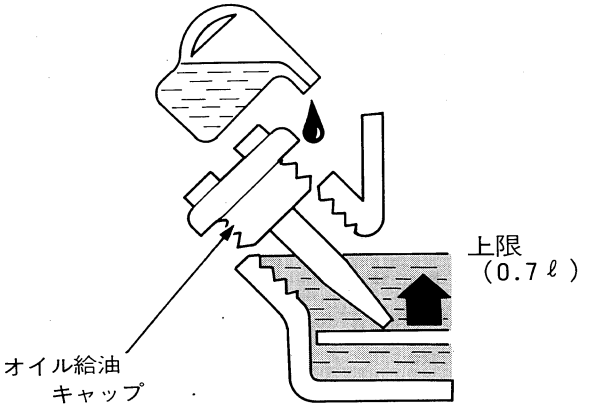
使用工具 • 両口スパナ



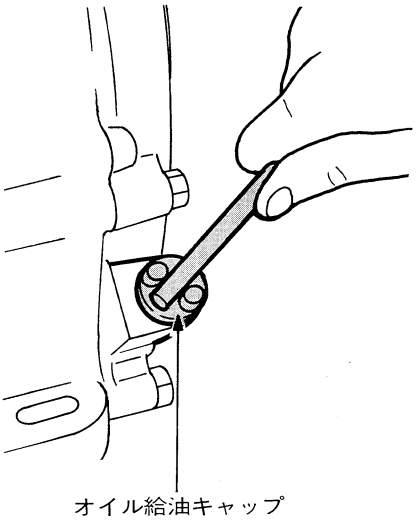
2. オイル給油キャップを外します。
3. 両口スパナで排油ボルトを外して、オイルを抜きます。
   エンジンが暖かいときに行なうとエンジン内に残る量が少なく早く抜けます。
4. 排油ボルトをきれいに洗い、シリンダ バレルに両口スパナで確実に締付けます。

注意 • クローラに付着したオイルはよく拭き取ってください。

5.注入口の口元まで新しいオイルを注入します。



6.注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。



注意

- エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、やけどをしないよう注意してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ないましょう。
- 給油キャップは確実に締付けてください。確実に締付けない時にはオイルがにじみ出ることがあります。

クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

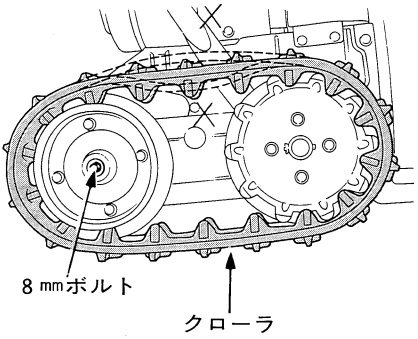
《調整時期》 年一回初めの点検

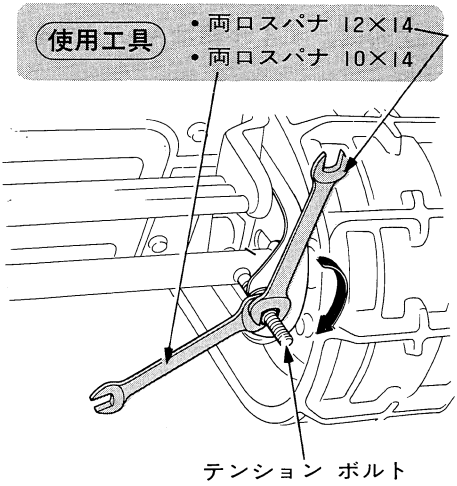
《点検のしかた》

本機を横に傾けてクローラを浮かせた時、自然にたわまない状態。

《調整のしかた》

1. クローラローラの8mm ボルトをゆるめる。(左側クローラ ローラの8 mm ボルトは 左ネジです。)
2. テンション ボルトのダブル ナットをゆるめる。
3. 内側のナットを調整する。
   右に回す：張る
   左に回す：ゆるむ
4. 左右の張りを同じにする。
5. 内側のナットを固定し外側のナットを締め付け確実に固定する。





注意 • 左右の張りは均一にしてください。

点火プラグの点検、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

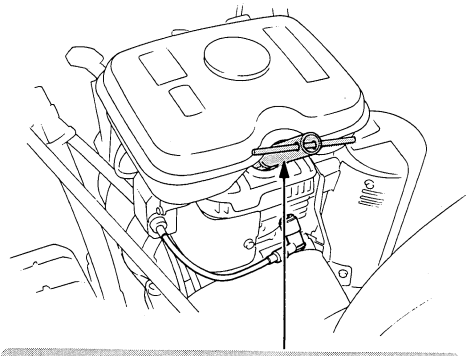
清掃：年一回初めの点検

《清掃・調整のしかた》

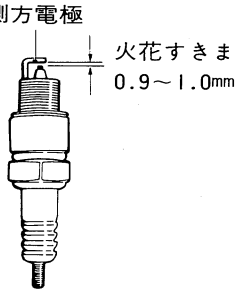
1. プラグ キャップを取外します。
2. プラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで点火プラグを取外します。
3. プラグを清掃します。
   清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買い上げ販売店又は最寄りのホンダＳＦへお申しつけください。
   プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。
4. 側方電極をつめ、火花すきまを0.9～1.0mmに調整します。
5. 取付けはまず指で軽くねじ込み、次プラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けてください。

《指定プラグ》

BPR４HS—10(NGK)
W14FPR—UL10(ND)—別売部品



使用工具
- プラグ レンチ
- プラグ レンチ ハンドル



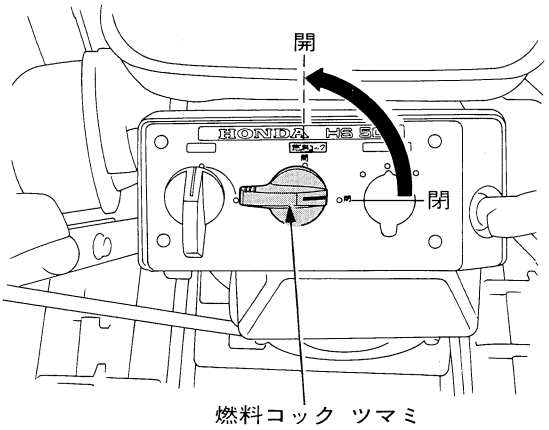
注意
- 指定以外のプラグを使用しないでください。
  指定以外のプラグを使用するとくすぶり、焼けすぎを起します。これは始動不良、回転不調、馬力不足などの原因になります。
- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

長期間使用しない時の手入れ

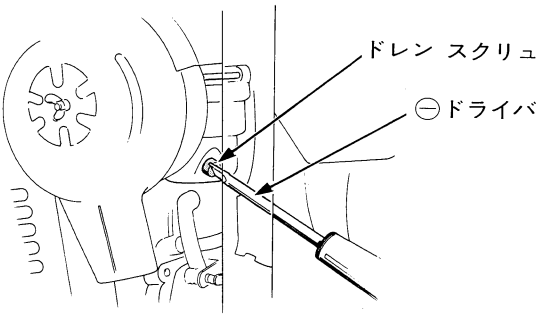
降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1　.燃料タンクおよび気化器内のガソリンを抜きとる。

1）燃料コック　ツマミを〝開〟にしてください。



2）気化器のドレン　スクリュをゆるめてガソリンを容器に受けます。

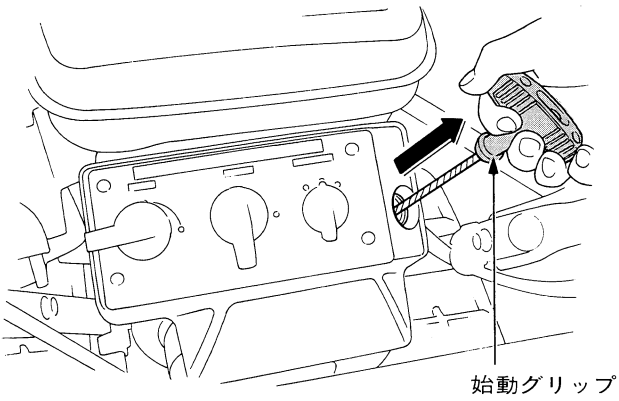


3）完全にガソリンが抜けたらドレン　スクリュ、燃料コック　ツマミを元に戻します。

注意
- ガソリンを抜くときは火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 抜いたガソリンの後始末は十分に行なってください。

2.始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。

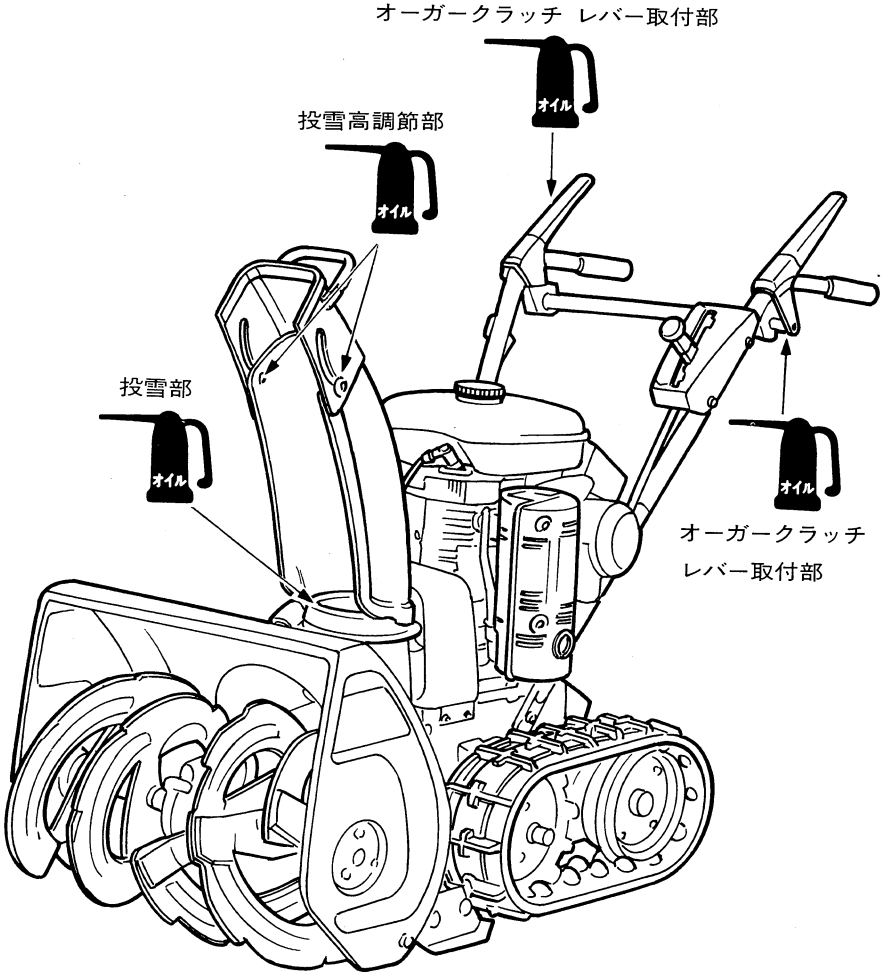
（吸排気の弁が閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる）



●保管時の給油箇所

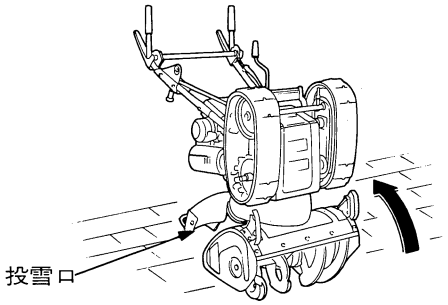
作業を終わり次のシーズンまで保管する前に次の箇所にオイルを給油してください。

• 各作動部

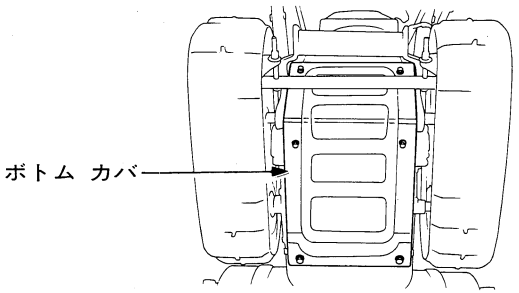


• 本機内側

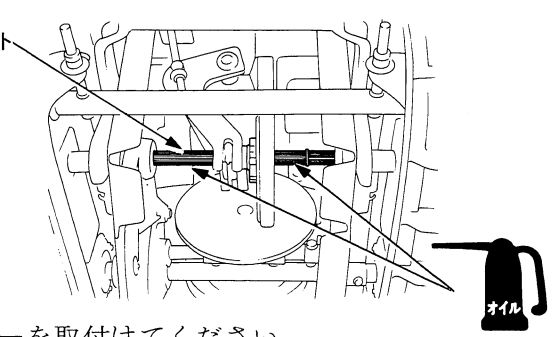
～1.路面の平担な所で投雪口を前方に向け本機を図のようにしてください。



～2.両口スパナでボトム カバーを外す。



～3. フリクションディスクシャフトにオイルを塗布してください。



～4.ボトム カバーを取付けてください。

注意 • シャフトにオイルを塗布しないと錆たりして正常な作動が出来なくなります。

修理を依頼される前に

まずご自身で次の点検を行ない、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買い上げ販売店又は最寄りのホンダＳＦへご連絡ください。

●エンジンが始動しないとき

1.始動方法は正しい順序でしたか？

2.ガソリンは入っていますか？

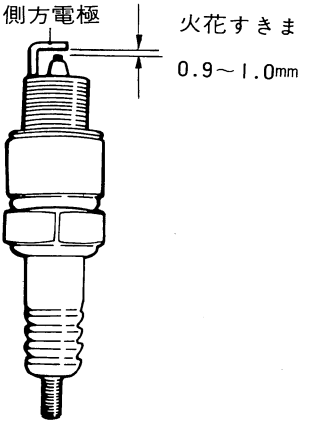
➡少ないときは補給してください。底にたまっているだけでは不十分なことがあります。

3.点火プラグがぬれていませんか？

➡ぬれているときは乾かしてください。又汚れているときはきれいにする。

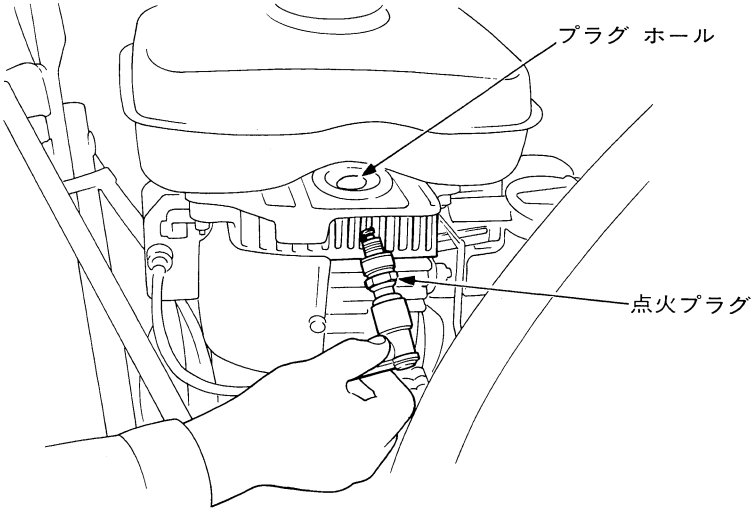
4.点火プラグのすき間は正しいですか？

➡すき間が正しくないときは側方電極をつめすき間を0.9～1.0mmに調整する。



4.点火プラグから火花が出ますか？

プラグキャップを外し点火プラグを取外して、プラグキャップに取付け、プラグをエンジンにアースさせ（感電を避けるためにプラグキャップ以外には触れないでください。）エンジンスイッチツマミ〝**運転**〟にして、始動グリップを強く引きます。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。この点検をする前に、シリンダーやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはぼろきれで完全に拭きとってから行ってください。



➡火花が出ないときは、新しいプラグと交換するか、お買い上げ販売店にご連絡ください。

注意

- 濡れた手では絶対に行なわないでください。
- ガソリンが付着していると引火するおそれがあります。完全にふきとってから行なってください。
- この点は風通しの良い場所でプラグ ホールに顔や手を近づけないで行なってください。

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

主 要 諸 元

名　　称……ホンダHS50

エ ン ジ ン

型　　式……ホンダエンジンG200

最 高 出 力……5.0PS／2,000r.p.m（カム軸）

排　気　量……197cm^3

内径×行程…67×56mm

始 動 方 式……手動方式（リコイル式）

点 火 方 式……C.D.I方式

オイル容量…0.7ℓ

燃料タンク容量……3.5ℓ

点火プラグ…BPR 4 HS—10（NGK）
W14FPR-UL10（ND）

フ レ ー ム

全　　長……1,235mm

全　　幅……550mm

全　　高……975mm

乾 燥 重 量……75kg

除　雪　幅……550mm

除　雪　高……415mm

投 雪 距 離…… 8 —12m（前方）
8 —13m（右）
7 —10m（左）

• 投雪距離は雪質により異なります。

メ　モ

メ　モ



HONDA

本田技研工業株式会社
東京都渋谷区神宮前6－27－8

30732020
00X30-732-0200

N30008309